

経営一転語 72 経費節減病とは

業績低迷を打開しようとして、社長は、決算書を見てもよく分からず、損益計算書を見ても打つ手が分からない、そこで、利益を出そうとするときに、結構、安易な道を選びやすいものです。

一番手っ取り早いのが、「経費を削減しよう」とすることです。

「経費を節約する」ということは、よいことではあるのですが、経費の中には、削ってはいけない経費や投資にあたる部分もあるので、むやみやたらに経費を削減するのは、実は危険なことなのです。

そして、コストばかりが気になるというのは、気をつけなければいけません。

必ず製品の品質が落ちてしまいますし、会社の中で、一番大事なものはコストになってしまい、お客様サービスにかかるコストなど真っ先に削られてしまい、お客様を怒らせ、信頼をなくしてしまうことが多いものなのです。

極端なケースでは、経費を削減し過ぎて、会社をつぶしてしまうことにもなりかねません。

中小企業では、長引く不況の中、削れるものは削っていますので、すでに削れる経費などほとんどないというのが実情でしょう。

多少の無駄はクッションとして必要です。

大切なことは収益です。経費節減病にかかったら、このことが全く分からなくなります。

経費削減病というのは、1のコストを減らすことができれば、10の収益が減っても、意に介さず、コストにしか関心がなくなってしまう恐ろしい病気です。

社長は、経費よりも、「収益をどうして上げるか」ということを幹として考えていきましょう。